

第6回 柳瀬川回廊事業推進検討委員会（議事要旨）

〔日 時〕 平成29年4月7日（金） 13:00～16:30
〔場 所〕 市内緑地の現地視察、下宿地域市民センター
〔出席者〕 委 員 11名 （欠席者1名）
事務局3名 清瀬市 都市整備部 水と緑の環境課

〔議事次第〕

- （1）柳瀬川回廊内の緑地の現地視察について
- （2）現地視察の総括
- （3）その他（次回日程など）

〔配付資料〕 次第、資料（緑地管理方針 検討図）…現地視察時のメモ用

【（1）柳瀬川回廊内の緑地の現地視察について】

①野塩一丁目地内の市有林、中里緑地保全地域②A地区⇒③B地区⇒④C地区、中里地域市民センターを視察後、車で⑤中里四丁目市有林まで移動。⑥台田市有林、⑦台田の杜、⑧台田水路を視察し、下宿地域市民センターまで移動。

【（2）現地視察の総括】

野塩の市有林（①）の管理方針について

委員A 常緑、落葉、高木、中木、下草層が揃っている林だと思うが、管理を考えると、全てを生かすのは無理なので、落葉樹のみにして、常緑は5～10年の間に少しずつ整理しつつ、中木が少ない部分や下草層が安定していない部分は高林化を避ける、高木はある程度上で樹冠を切るなりして一定程度抑え、中木や下草層はしっかりと育てるのが良い。時間をかけつつ、笹が入らないような環境にしながらか、落葉樹中心にした高木中木の多重な林層を目指すことによって、安定した良い林になるのではないかな。

委員B 古い林で植生は豊かで、ニリンソウ、イチリンソウ、アズマイチゲがあるが、だんだん変化している。なるべく今の植生を絶やさないうような森にするにはどうすれば良いか考えているが、台風の度に1～2本倒木し、そのできた隙間によっても少しずつ植生が変化している。

委員長 今あるあの森の高木をどうしていくかが、一つのキーになります。林を暗くしてしまえば春植物が生えなくなるし、春植物を強調し過ぎると木を切らなくてはなりません。切っていくと、委員Aからの提案にある「階層のある林」にはなりません。

あの林は、大きくみたら、西、中央、東で少しずつタイプが違いますので、一番西側の管理されたニリンソウも生えているところは、常緑樹も全く無く、

継続するのが良いと思います。中央は常緑が随分入っているところで、低木まで常緑になっているので、委員Aの提案のようにできるかもしれませんし、一番下に水が流れていた所は明るくして、むしろ湿地の植物が育つ環境にするのもいいでしょう。

委員C 安全面に関して、隣接している住宅側（河川管理通路の反対）は高木が人家に迫っており、排除しなくてはならないし、イチリンソウの咲く場所についてはツルマサキなどの珍しい木もあるので、そういったものを残しながら、ある程度光を入れて、植生と日光の入り方を考えながら、切るべき木は切って、植生とのバランスを考えていくべきである。訪れた人に、珍しい植生を見てもらうことを目指すのであれば、管理をどうしていくかにかかってくる。林をどうしていくかの方向性をだすと、維持管理している団体も、管理者である市や都との協議が進めやすくなり、継続性のあるものになっていく。

委員長 今回の答申は、「管理をこうしていくべきだ」というところまで踏み込むべきだと思います。事務局のほうで、何年計画でここをこういう管理をしていきたいと思いますということを、具体的な場所を挙げるまではいかなくとも、全体を見たときに「こういうタイプの林があって、こういう管理がそれぞれ必要だ」というレベルまで整理できていくと良いと思います。

回廊は、単的にいうと斜面が多かったですが、急斜面、緩斜面があり、平坦地もありました。緩斜面はカタクリなど、急斜面は手を入れないので常緑の林や常緑の低木やシラカシが生え、その下はえぐれていました。窪地になっているところ、例えば、台田団地の水路沿いの斜面などは春植物がでますので、そういうことを意識しながら管理しなくてはなりません。①も窪地として見たほうが良く、水分が多いところなので、春植物の適地だと思います。春植物のするような環境を考えると、自ずと落葉樹でなくてはなりません。落葉樹でなくてはならないとしたら、ヒノキは除去することになります。

まず、私たち委員は広い目で見て、ポイントとして、この場合はこうだということを示す例として、答申では具体的に数箇所挙げるかもしれません。

緑地の安全性について

委員D どの林も高木があって、枝に折れ枝がかかっていたり、枯れて傾いているものも見られるので、林に入って散策していて、落ちたり倒れたりという危険性を回避しなければならない。

委員長から答申指針の説明（地形・植生分布・貴重な植物のリストアップなど）

委員長 答申の項目を考える必要があります。

入れなくてはならないと思っていることの一つは、まずどういう地形が回廊沿いにあるのか、特に緑があるところで調べたいと思います。急斜面・緩斜面・

崩壊・流路の歴史を地形という観点で見たいと思います。

二つ目は植生分布です。これはみどりという観点と、土地利用という観点があります。つまり、歩く人が目にする景色はどういうものか、というのが入ってきます。もう一つは、そこにあるみどりの質がどういうものであるか、竹林なのか、雑木林なのか、その中でも常緑や下草の管理はされているような場所なのかという観点があります。土地利用は森林・草原といったレベルで良いですが、植生分布となると植生図を作ることによって、林の質が分かってくるということになります。

三つ目は、植生分布の中の単位になるようなもので、どういった植物が分布しているか、特に注意したいのは春植物で、回廊の一つの「売り物」だと思います。普通にある植物以外で、どこに何があるかを作りたいと思います。

次に、管理の状況（実施時期・内容など）を調べる必要があります。常に下草を刈っている、ササが 10～20cm で抑えられている、などです。中里のカタクリなど上手くいっている例や、どう管理していったら良いか皆さんの経験があるわけですから、それも入れたいと思います。「こういうところを管理するとなれば、こういう管理が必要」という提案です。

それから管理に関してもう一つ、これから森をどうしていくかということで、とても大事で、方針にも関わってきます。何年経ったらこのくらいの大きさになるというのを背景として持ちながら、理詰めで考える必要があります。

どう管理していったら良いか、どういう楽しみ方ができるか、提案型の答申にしていきたいと思います。

それから外来生物への対応も提案に入れておいた方が良いでしょう。庭に植えているものが雑木林に生えているのは良いことではなくて、できれば除去した方が良いでしょう。トウネズミモチは、環境省の要注意外来生物です。

答申に向けての宿題

委員長 宿題は、各委員の関心のある場所で、他には見られないような植物を早めにリストアップすることです。それから流路の歴史、江戸時代から遡るようなものでよいので、少し土地利用の歴史的なものを調べていただきたいと思います。管理に関しても、可能な限り、場所毎のこれまでの管理内容を纏めてください。今年の3回目の会議までに整理しておいてください。

私の宿題は、今日見てきた回廊コースの両側 200mの植生分布の地図を作ります。

【その他】

次回スケジュール：5月下旬 柳瀬川回廊の水辺の視察（3箇所程度）